秋田支店
農業者・食品事業者向け台湾輸出セミナーを開催

秋田県の農業者および食品事業者を対象に「台湾フードビジネスセミナーin秋田」を開催。21人が参加しました。

セミナーでは、台湾で日本産農林水産物・食品の販売事業やベーカリー事業を手掛ける貿易商社である仁美國際股份有限公司のCEO浜島貴仁氏が登壇。台湾の概況や日本との関係性、輸出時の規制、輸出事例など、幅広い内容について講演しました。

講演後には、参加者から輸出に関する相談が寄せられ、浜島氏が個別にアドバイスをおこないました。(10月1日)

浜島氏の講演を熱心に聞く参加者の様子

福島支店
被災地で未来の担い手を育てる全日制の農業学校で講義

2024年4月に開校した南相馬市みらい農業学校(株式会社マイファーム運営)で、生徒15人に対し出張講義をおこないました。

講義では、農業経営の始め方、販売戦略・ビジネスモデルの検討などをテーマに事業計画をつくる重要性を説明。講義後半のグループワークでは、実際に事業計画の作成にも取り組み「事業計画を考えることがこれほど大事だとは思わなかった」「就職しても経営者の立場で取り組みたい」との声がありました。受講生たちは卒業後に市内の農業法人への就職や新規就農を予定しています。(10月7日)

真剣にグループワークに取り組む受講生の皆さん。活発な意見交換がなされました

松山支店
地域農業者の交流の場を新規就農者交流会

県内の新規就農者、農業大学校の学生を対象に交流会を開催。農業関係機関を含め87人が参加しました。

講演会には、日本プロサッカーリーグのJ2に所属するFC今治を運営する株式会社今治.夢スポーツ代表取締役社長の矢野将文氏と、空浮合同会社代表社員の大山隆氏(香川県/イチゴ)が登壇。夢や目標の達成に向けたプロセス、事業規模拡大の際の留意点などについて講演しました。

その他、関係機関から、営農開始に係る情報提供などを実施しました。(10月7日)

講演後、6グループに分かれ、営農開始時の悩みなどを盛んに意見交換する参加者

福岡支店
「マーケティング目線から見る農業経営」勉強会

福岡県農業経営アドバイザー連絡協議会にて勉強会を実施。オンライン配信を併用し合計16人が参加しました。

講師には上級農業経営アドバイザーで経営コンサルタントオフィスb-MAP代表の久田博司氏(愛知県/中小企業診断士)が登壇。自身の経験談を交えながら「農業者支援においては、農業の特性を踏まえ商品価値の向上を図ること、その価値を持続できる仕組みをつくることが重要」と力説。

参加者からは「自身の支援活動にも生かしたい」などの声が寄せられました。(10月7日)

支援ツールについて解説する久田氏と傾聴する参加者

千葉支店 儲かる農業の仕組みとは 交流会でマーケティングを学ぶ

「令和6年度お客さま交流会」を一般社団法人千葉県農業協会と共催。公庫のお客さまと関係機関、119人が参加しました。

講演会には公益財団法人流通経済研究所主席研究員の折笠俊輔氏が登壇。「儲かる農業の仕組みづくり～利益を出す生産・流通・販売～」と題し、具体的な事例を用いて利益を生み出すためのポイントを解説しました。

「講師の話がわかりやすく、今後の経営の参考にしたい」「県内のさまざまな業種の経営者と会うことができ、有意義だった」との声が寄せられました。(10月25日)

講演会後の懇親会では、さまざまな業種の方が活発に情報交換をしました

札幌支店 農業経営アドバイザー勉強会 事業承継について学ぶ

北海道農業経営アドバイザー連絡協議会「かけはし」の勉強会を開催。講師に税理士法人アンビシャス・パートナーズ代表社員税理士の森下浩氏を招き、「農業経営における第三者承継の事例と悩みどころ」と題して、事業承継についての講演をおこないました。

「実務に即していて大変興味深い内容だった」「支援事例が大変参考になった」といった感想が寄せられ、アドバイザーにとっても関心の高い内容であることがわかりました。勉強会はオンラインで同時配信し、遠方からも多数参加がありました。(10月29日)

会場とオンライン参加者は、あわせて51人でした。オンラインでの質疑応答も活発になされました

北見支店 新規就農セミナー in 東農大を開催

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス、北海道オホーツク総合振興局および公益財団法人北海道農業公社と共催で、学生向けに新規就農の魅力を伝えるセミナーを開催。当日は、学生27人が参加しました。

北海道農業公社から新規就農する際の流れや就農形態の違いなどを、公庫北見支店からは公庫が有するデータを用いたオホーツク農業の分析結果を解説。さらに農事組合法人勝山グリーンファーム(常呂郡置戸町／畑作)からは経営内容と雇用条件について説明しました。(10月29日)

参加者からは「将来の就農に向けたイメージが湧いた」などの感想が寄せられました

長野支店 長野県農業大学校にて 農業金融を学ぶ授業開催

長野県農業大学校(長野市)の2年生15人を対象に「農業にまつわるお金の話」と題し、農業金融の特徴や事業計画の重要性などをテーマに出張授業を実施しました。

受講生には農業経営の後継者や農業法人への就農希望者がいましたが、「日本公庫」について詳しく知らない方もいたため、特徴的な取り組みであるお客さまの課題解決支援やセーフティネット機能の発揮、民間金融機関との連携について説明しました。

受講した学生からは「事業としてお金を借りることは、普段の生活のお金の貸し借りとは違う特徴があることが理解できた」などの感想がありました。また教官からは「将来、自分で農業経営をするにせよ、農業法人に就職するにせよ、農業関連企業に就職するにせよ、農業金融を理解することは非常に重要。これからも大学校向けの授業をおこなってほしい」とのコメントを受けました。

今後も大学校などと連携し、地域の農林水産業の発展に貢献していきます。(11月1日)

みんなの広場

♠秋1号の「農と食との邂逅」を拝見して、現地を訪ねたくなりました。学術的文章が多い本誌では、地域の隠れた食材を紹介する記事はとても貴重です。読んで楽しいからです。

私には、鹿児島県の離島やへき地の「農と食の邂逅」を発信する「一級フードコーディネーター」や「食の6次産業化プロデューサー」の資格を持つ知人がいます。貴誌でこうした方々を紹介し、地域特有の新鮮な情報を全国に発信すると、一般読者にも喜ばれると拝察します。

本誌が全国のへき地・過疎地紹介の発信源となり、地方の一次産業の起爆剤となりますように。

（鹿児島市　吉見 満雄）

♠私は「カツオのたたき」が大好きだ。しょうゆにつけて、炊きたての白米と一緒に食べると、すこぶるおいしい。何度も観光に訪れた高知県で、食べ放題のカツオ料理をおなかいっぱい食べることに無上の幸福を覚えた。

秋1号「変革は人にあり」の薮田洋平さんは、静岡県御前崎市で、カツオ一本釣り漁法にこだわる水産会社を営む。薮田さんのお話は実に興味深い。

一本釣りは江戸時代から続く漁法で、魚体を傷めず、まき網漁ほどカツオを獲り過ぎない。新鮮な状態で消費者に届けることはもちろん、資源を大事に守り抜く漁法だと知り、目からうろこが落ちた。これからもわが家の食卓にはカツオのたたきが並ぶだろう。

（広島市　内悧）

次号予告
冬2号（3月発行）

「国産材利用促進に向けた木材SCM（仮）」

日本は木材自給率が諸外国に比べ低い。その要因の一つが生産と消費のミスマッチだ。木材流通のどこにボトルネックがあるのか。木材サプライチェーンマネジメント（SCM）に取り組む事業者や団体への取材などを通じ、木材流通の持続的発展の道筋を探る。

ご意見募集

今号はいかがでしたでしょうか。感想やご意見をお寄せください。FAX・eメールなどで受け付けています。掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。

FAX：03-3270-2350
eメール：anjoho@jfc.go.jp

編集後記

♠原料や職人といった地域の大切な資源をもとに継承される酒造りとグローバルな視点で練られる販売戦略は、天山酒造が掲げる理念「不易流行」そのものだ。輸出促進には世界的な景気や輸出入規制などの影響は不可避だが、伝統と新たな発想が組み合わさり、日本のお酒の存在感が世界で一層増すことを想像しながら、Kampai。（細谷）

♠少子高齢化・若者のお酒離れなど国内消費は限界に近づきつつある。そのなかで、海外市場を切り拓く「サムライ」たちを特集させていただいた。日本人が持つ独特な固定観念を取り払い、自分たちの市場をつくり出すこと――今回の取材を通じ、日本産酒類の可能性はまだまだ無限大であることに頼もしさを感じた。

（宮崎）

♠「変革は人にあり」Agnaviの横浜事務所を訪ねると、色とりどりの1合缶がズラリ。思わず手に取りたくなるものばかりで、手土産やギフトにもぴったり。玄社長のお話も相まって、「日本酒缶」へのイメージががらりと変わりました。

（大谷）

♠お酒を選ぶときには、香りや味はもちろん、つくり手の思いにも共感しています。「フォーラムエッセイ」芋洗坂係長さんが造る焼酎には数々の物語が込められているからこそ、その魅力を発信し続けられるのだと思いました。

（岩本）

秋2号　目次および14ページの山中基様の肩書を次のとおり訂正いたします。
（訂正後）株式会社ゴールデンウルヴス福岡 代表取締役
山中基様、読者の皆さま、関係者の皆さまにご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。

AFC Forum フォーラム　2025.1 冬1号

■編集
前川 紘輝　細谷 哲郎　宮崎 善幸
大谷 香織　澤田 真理　岩本 悠里
水谷 徳子

■編集協力
金子 弘道

■発行
株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail　anjoho@jfc.go.jp

■印刷
株式会社佐伯コミュニケーションズ

＊本誌に掲載している記事、写真、図表、データなどをご利用になりたい場合は、事前に当社までご連絡ください。